

# 令和3年度第5回西宮市民ファミリーハイキング事業報告

奥アンツーカ（株）

【実施日時】 令和4年1月13日(木) 10:00~12:00

## 【実施概要・コース】

第5回ハイキングは、1月にもかかわらず好天に恵まれた中、10:00に阪急苦楽園口駅すぐの夙川公園に集合し、お申込み31名、当日参加29名で実施しました。



まず、夙川公園を出発して、小説『火垂るの墓』誕生の地であるニテコ池に向かいました。

ここは、野坂昭如の小説「火垂るの墓」の舞台となっていることでも有名です。小説の中では、太平洋戦争に巻き込まれた兄妹が、この地でつかの間の安らかなときを過ごす舞台となっており、ニテコ池のほとりの防空壕（ごう）で暮らした野坂昭如本人の体験が描かれているともいわれています。ニテコ池は阪神・淡路大震災のときに大きく崩壊しましたが、今は修理され、桜の名所となっています。その池のすぐそばの西宮震災記念碑公園にある、野坂昭如の小説「火垂るの墓」の記念碑を見学しました。

次に、「日本書紀」にもその由緒を記される廣田神社に向かいました。廣田神社の由来は、その昔、神功皇后が新羅に遠征した帰途、海上で船が進まなくなったため占ったところ、天照大神より「わが荒魂を広田国に居らしめよ」と

のお告げがあったので、これを受けて祭ったのが始まりとされています。古くは朝廷・貴族の崇敬を受け、社殿の前で貴族の遊びである歌合せがたびたび行われました。中でも承安2年（1172年）に催された歌合せは有名で、当代の貴族58人が集まり1人3句の歌が詠まれました。室町時代からは、6月に五穀豊穰を祈願する「お田植え神事」が行われ、長い歴史の中で幾度か中断しましたが、現在も変わらず行われています。また、境内などには、約2万株のコバノミツバツツジが群落を形成しています。県の天然記念物に指定されており、3月下旬から4月にかけて一斉に開花し、4月下旬まで見頃が続くことでも有名です。

この日は、1月にしては暖かく、ニテコ池から続く丘を越えた廣田神社で小休止しました。

続いて、廣田神社参道を経て、西国街道沿いを越水城跡に向かいました。現在、大社小学校の敷地内に、越水城跡の記念碑があります。戦国の要衝であった越水城跡の記念碑などが続く今回のコースは、その昔西宮の南部が海に覆われていた時代の海沿いを歩くコースであることなどを確認しながら、次の見どころの西田公園



(万葉植物苑)に向かいました。

小高い丘になっている西田公園は昔、小高い丘の林だったといわれ、大昔は、このすぐ近くまで海が迫ってきていた場所でもあります。また、西田公園は、晩年、西宮にお住まいだった日本文学者の故犬養孝先生(1907-1998)が尽力され、1988年に誕生した公園でもあります。先生が選ばれた歌と、その歌に出てくる植物が植えられたことで、万葉植物苑という別名も持っています。

ここで小休止の後、谷崎潤一郎の小説「細雪」に出てくる「一本松」と「マンボウトンネル」を抜けて、ゴールの西宮神社に向かいます。

西宮神社に行くまでの途中には、小説「細雪」に登場する「奥畑」の家とされるところには一本の松があり、「一本松地蔵尊」と「武庫郡と菟原(うはら)郡の郡界伝説の碑」があります。この辺りは戦前からの住宅街で、現在も生垣に囲まれた家があります。

また、JR線の築堤をくぐる歩行者・自転車専用のトンネルは、「細雪」に登場したことで「マンボウ」と呼ばれるようになりました。この日も、ハイキング参加者全員ですれ違う方々を気にしながらマンボウを通りました。

最後に、ゴールの西宮神社に向かいます。

西宮のえびす様は、古くは茅渟(ちぬの)海(うみ)と云われた大阪湾の、神戸・和田岬の沖より出現された御神像を、西宮・鳴尾の漁師がお祀りしていましたが、御神託によりそこから西の方、この西宮にお遷し、祭られたのが起源と伝えられています。

古社廣田神社の浜南宮の内に鎮座したえびす大神は、漁業の神として信仰されていましたが、この西宮は西国街道の宿場町としても開け、市が立ち、やがて市の神、そして商売繁盛の神様として、隆盛を極めるようになります。現在、「十日えびす」には百万人に及ぶ参拝者で賑い、阪神間最大の祭として全国に知られています。また、通称赤門と言われる表大門は、豊臣秀頼公の奉献によるものとされ、桃山建築の遺構を残し、その左右に連なる全長二四七メートルに及ぶ大練塀と共に重要文化財に指定されています。また境内えびすの森は兵庫県指定の天然記念物となっています。

今回は、市内のよく知っているようで知らない見どころを初詣の1月に合わせて開催し、全員完歩しました。



【当日経路】(地理院地図より)

